

## 甲状腺ホルモン検査の勧め

厚生連高岡健康管理センター所長 亀谷富夫



甲状腺は前頸部にある蝶の形をした臓器で、身体全体の代謝や成長に関係した甲状腺ホルモン $T_3$ 、 $T_4$ を分泌する重要な働きをしています。甲状腺ホルモンが増加した機能亢進症<sup>こうしんしょう</sup>では、体重減少、頻脈、発汗増加の症状を、機能低下症<sup>いひろうかん</sup>では無気力、易疲労感、浮腫、寒がり、体重増加、記憶力低下、不妊、流産<sup>てい</sup>などの症状を呈しますが気づかれにくいこともあります。人間ドックでの検査では約10%に機能異常が発見されると報告されています。機能低下で最も多い慢性甲状腺炎（橋本病）は女性で10人に1人、男性で40人に1人とされています。機能亢進症（バセドー病）は1000人あたり0.2~3.2人とされています。甲状腺中毒症では命に関わる甲状腺クリーゼとよばれる状態を起こすこともあります。人間ドックでは下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモン（TSH）と甲状腺から分泌される遊離 $T_3$ と遊離 $T_4$ のホルモンの3種類を測定し診断します。健診で甲状腺腫を指摘されている方、甲状腺機能異常が疑われる症状のある方、家族に甲状腺疾患のある方、妊娠を希望されている方は是非検査をしてください。

厚生連高岡健康管理センターでは、健診時に甲状腺ホルモン検査をオプションで検査

（令和7年4月開始・当日申込可能）できますので是非ご利用ください。

表 1 甲状腺疾患の症状

	症状
甲状腺中毒症	頻脈、体重減少、手指振戦、発汗過多、下痢、暑がり、イライラ感、眼球突出、月経異常
甲状腺機能低下症	無気力、易疲労感、浮腫、寒がり、体重増加、動作緩慢、傾眠、 <sup>させい</sup> 嘔声、便秘、月経異常、物忘れ

表 2. 甲状腺機能異常のみかた

遊離甲状腺ホルモン	甲状腺刺激ホルモン	甲状腺の状態	
低下	低下	中枢性甲状腺機能低下症	精密検査が必要
上昇	低下	<sup>けんせい</sup> 顕性甲状腺中毒症	バセド一病、機能性甲状腺結節、破壊性甲状腺炎等で健診者の 1.1~2.1%に認められます。精密検査が必要
正常	低下	<sup>せんせい</sup> 潜在性甲状腺中毒症	健診者の 0.8~2.3%に認められます。心房細動、心不全、骨折リスクが上昇。亢進症移行に注意必要。精密検査が必要
正常	正常	正常	正常です
正常	上昇	潜在性甲状腺機能低下症	健診者の 3.3~6.1%に認められます。原因として多いのは、慢性甲状腺炎、ヨウ素過剰、甲状腺手術後等です。自己抗体陽性では 1 年に 4.3%顕性機能低下に進行します。TSH が 10 $\mu$ IU/mL 以上または妊娠希望時は要治療。TSH が 10 $\mu$ IU/mL 未満では年齢、症状で治療の可否が判断されます。精密検査が必要
低下	上昇	顕性甲状腺機能低下症	健診者の 0.5~0.69%に認められます。慢性甲状腺炎が最も多い。その他にヨウ素の過剰、不足や一過性の機能低下の可能性あり。精密検査が必要です。
上昇	上昇	不適切 TSH 分泌症候群	精密検査が必要